

奉納書道展、締め切り迫る！（九月二十日（水）まで）各院または納経所へお届けください。



餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺
〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187

納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187
恵亮院 TEL/FAX 086-942-3788
本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823
吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789
定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490
明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069
圓乘院 TEL 086-942-2356
ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

ひとくち法話

『感謝の気持ち』



人は生涯しょうがいに何回くらい食事をするのでしょうか？一日に三回、一年で千回以上、八十歳まで生きたとして約八万七千回です。膨大な数のようで、実は数えることができるくらい限られた回数です。

食事の前に「いただきます」というのは命をいただくことに繋がっていることに感謝をする意味があります。食事の後の「ご馳走さま」。「馳走」とは、物事の支度したくのために走り回ること。昔の人はお客さんを招いて食事を出す時、主人は野山を走り回って苦労して食材を集めました。そうして用意された食事に対し、お客さんは感謝と敬意の気持ちをもって手を合わせていたのでしょう。

今はお店に行けば手軽にいろいろなものが手に入る時代ですが、感謝の気持ちは大切にしたいものです。このころは、まともに食前食後の挨拶あいさつをしない人もあると聞きますし、私たちが普段は、食事に対する感謝の気持ちを忘れてしまいがちです。

これは食事に限らず衣食住、当たり前のように思っているその全てが実は当たり前ではありません。常に感謝の気持ちを持ち続けることは大変難しいことですが、せめて食事の前後の挨拶に手を合わせ食事をいただくだけで、多くの縁によって生かされていることに感謝をすべきではないでしょうか。

日常の仏教用語集

■「智慧」

物事を正しくとらえ真理を見きわめるえいち叡智。また、すべての道理を明らかにし、迷いを払い、悟りを成就じょうじゆしようとする力。「智」は別別思い。「慧」はこの思いの定まったもの。

■「不可思議」

不思議ともいう。ことばで表現したり、心で推しはかることのできないこと。仏の悟りの境地きようちや智慧・神通力じんつうりきなどの形容に用いる。

■「未曾有」

これまでになかったこと、非常に珍しいこと、世にも不思議なこと、奇跡の意。



餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日（於 薬師堂）
毎月8日 午前10時～（8月はありません）
護摩供養をしています。
ご祈祷のお申し込みは随時納経所でお受けします。

観音縁日（於 本堂）
毎月18日 午前8時～
みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽にお参りください。



餘慶寺水まつりのご報告

八月二十六日(土) 十八時より、餘慶寺本堂・境内において水まつり(施餓鬼会・万灯会)を厳修いたしました。

今年も天候にも恵まれ、多くの方が参拝に訪れました。万灯会では昨年より加わった竹あかりがバージョンアツプし、より一層、境内が幻想的に荘厳されました。また、「寺遊びinよけいじ」で子ども達がデザインした竹あかりも供えられ自然と笑顔があふれていました。



初盆供養会法要のご報告

八月十五日(日)、この一年間に亡くなられた方々を弔う初盆供養会が厳修されました。

初盆とは、四十九日(満中陰)の忌明け後、初めて迎えるお盆のことで新盆とも言います。また、お盆とは古いインドの言葉「ウランバーナ」(逆さに吊るされた苦しみ)からきた盂蘭盆を略したものです。お盆には初盆の方はもとよりご先祖様があの世から帰ってこられるため、大切に扱ってなするとともに、心から感謝することが肝心です。

法要には、合わせて二百人以上の方がお参りされ、故人を偲び、一心に供養されていきました。お参りに来られた皆様にとって、よいお盆になったと感じております。

寺遊びinよけいじのご報告

七月二十七日(木)、緊張した面持ちの子ども達が餘慶寺会館に集合しました。今日は「寺遊びinよけいじ」。「ありがたうをたくさん言おう」を目標に始まりました。

まず、本堂で開校式。読みなれないお経を一生懸命見つめながら唱えました。

続いて、お堂めぐり。子ども達は様々な物に興味津々。中でも、木魚や鑿子は普段ふれることがないこともあり大人気で、みんな何度もたたいていました。

休憩をはさんで写仏・写経。思い思いの感覚で仏様に色をほどこしました。また、写経にも多くの子が挑戦し、十三仏堂へ納めに行きました。

待望のお昼ご飯。お勤めの後、素麺と揚げたてのポテトが出されると、子ども達の食べる量と速さに驚きました。

お昼からは竹吉さんによる竹灯り作り。好きな模様を描き、穴を開ける所に印をしました。この竹灯りは水まつりで供えられました。

竹灯り作りが終わるとかき氷に自由時間。まだまだ元気な子ども達は鬼ごっこなど時間いっぱい遊びました。

最後は閉校式。「来年もまた来たい。」子ども達からは充実した感想がたくさん聞かれました。また、行事を通してたくさん「ありがとう」の声も聞こえ、とても思い出に残る「寺遊びin餘慶寺」になったことでしょう。来年も開催したいと思っておりますので是非ご参加ください。



餘慶寺寺宝展

十月十五日（日） 九時半～十六時

会場 本堂・薬師堂・餘慶寺会館

今年で第十五回となりました餘慶寺寺宝展が開催されました。今回は餘慶寺に伝わる室町時代の両界曼荼羅図に着目いたします。この金剛界・胎藏界の両界曼荼羅図二幅は、近年傷みが目立っていましたので、京都の仏画表具師に依頼をし、三カ年かけて丹念に修復されました。そして無事完了いたしましたので、修理報告を兼ねて、本堂で展示をし、皆様にお披露目をいたします。さらに餘慶寺会館では、十三時より岡山県立博物館統括学芸員の中田利枝子先生による両界曼荼羅図についての特別講演が行われます。

また、講演会の前には、ミニコンサートとして、「おせつかいばあば」天明さんが、楽しいトークを交えながら、懐かしい歌を聴かせてくれます。（十二時頃）
なおこの日には、隣接する豊原北島神社で恒例の秋の大祭が執り行われます。出店や寺庭婦人方の「もみじカフェ」もあり、きつとにぎやかな秋の一日になることでしょう。皆様お誘い合わせの上、ぜひ上寺へおいでください。



昨年の寺宝展の様子

特別寄進のおすすめ 八角堂天井絵

八角堂の天井を見上げると、一枚一枚、美しい花の絵が、極彩色ゆたかに鏤められています。この天井絵に一口十五万円でお施主を募り、永遠に枯れないお花をお供えしていただけるよう、六十一口ご用意しておりましたが、おかげさまで残り四枚となりました。

お申し込みの天井絵には、ご先祖様や今は亡き大切な方のご供養のため、ご自身の心願成就や家内安全のため等、お願いごととお施主名を、餘慶寺住職が心を込めて墨書をいたします。そして後世にまで功德が伝えられてゆきます。

なお、寄せられましたご浄財は、諸堂修理などの境内整備のために、大切に活用させていただきます。残りわずかとなりましたが、どうぞ皆様のご芳志をお寄せくださいますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

「戦没者慰霊・世界平和の祈り」のご報告

七月十四日（金）、原爆記念公園内で行われた天台宗平和祈念法要に大賀島寺・上寺山各院より三十三名が参拝しました。

当日は天候にも恵まれ、参拝された方それぞれが戦没者に慰霊の誠を捧げ、世界平和のために一心に祈ることができたことでしょう。

また、併せて参拝した山陽花の寺二十四番札所の観音寺では御住職様の楽しく意義深い法話を聴講でき、充実した団参になったと思います。



薬師護摩祈祷

護摩木三百円

木札授与三千円／五千円

毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

餘慶寺境内紹介

『八角堂』

慶寺三重塔の西側、阿弥陀堂の手前に八角形のお堂「八角堂」があります。寺院にある八角堂や六角堂などはお釈迦様の遺骨（佛舍利）を納めた舍利塔がもとになっています。

餘慶寺の八角堂では上寺山を開かれた報恩大師を正面にお祀りしています。報恩大師とは奈良時代、備前四十八ヶ寺を開かれた僧侶です。

また、堂内天井には永遠に枯れない花をお供えするという意味で極彩色ゆたかな美しい花の天井絵が鏤められています。お参りされた際には是非顔を上げご覧ください。必ずや心安らぐことと思えます。

さらに、堂内の柱には摩尼車があります。表面には餘慶寺と山内各院に祀られている神仏のご宝号が刻まれており、内部には天台宗の根本経典である妙法蓮華経が納められています。お参りされる際は、心静かに念じながら回転させてください。お経を唱えたのと同じ功德をいただき、神仏の加護にもあずかっていただけます。



よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館（十四時〜）

寺子屋写真館



今後の予定

☆『お坊さんの修行談義』

講師 岡山寺住職

九月十日(日)

☆『身近な仏教の話』

講師 明王院住職

九月十六日(土)

☆『両界曼荼羅とその修理について』

講師 岡山県立博物館統括学芸員

十月十五日(日)

☆『釈迦の生涯② 布教の旅』

講師 定光院副住職

十月八日(日)

☆『あの世のはなし』

講師 恵光院住職

十二月十二日(日)

☆『楽しく年賀状づくり』

講師 日本画家・岡山日展会員 神戸淑子先生

十二月二十五日(土)

※老若男女どなたでも聴講可能です。(無料)

お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

十月十五日(日)は十三時〜十四時半開催です。

十二月二十五日(土)は十四時〜十六時開催です。

編集後記

お盆・水まつりが終わり九月に入りました。たくさんのお参りをいただきありがとうございます。

朝・晩が少し涼ぎやすくなりましたが、まだまだ暑い日が続きそうです。農繁期に入るとは落ち着いていいると思いがすが体調には十分気を付けてくださいね。